

開 会 午後1時

●小形香織委員長 ただいまから、建設委員会を開会いたします。

報告事項であります、特にございませぬ。

それでは、議事に入ります。

陳情第37号 札幌市の公園での再整備に関する陳情を議題といたします。

陳情第37号は、本日が初審査ですので、提出者から趣旨説明を受けるため、委員会を暫時休憩いたします。

休 憩 午後1時01分

再 開 午後1時12分

●小形香織委員長 委員会を再開いたします。

それでは、質疑を行います。

質疑はございませぬか。

●山田一郎委員 ただいま、陳情者から本当に熱い思いをいただいたところでありまして、ちょうど脇元委員からもバスケットコートとテニスコートについてとありまして、私もそういえば学生時代テニスをやっていたので、確かに公園は足りないなというように考えたところがありますので、その点も入れて、今回、陳情については1項目めの公園の再整備の住民との協議の宣伝拡大の陳情及び3項目めの若い世代の声を取り入れることのできる制度の陳情に関して、私から質問いたします。

今、陳情者からもありましたとおり、公園を一番多く利用しているのは、やはり子どもたちであり、再整備を進めるに当たっては、子どもたちの意見を十分に取り入れること、これを要望していたかと思ひます。つまり、公園の再整備事業に関する話ということで、まずは基本的な部分から確認したいと思ひます。

まず質問ですが、公園の再整備事業の概要について伺ひます。

●高橋みどりの推進部長 公園の再整備事業の概要についてお答えいたします。

公園の再整備事業は、老朽化した公園の全体をリニューアルするものでございませぬ。

札幌市では、子どもたちが家から歩いて行けるような身近な公園については、地域と創る公園再整備事業という施策として取り組んでいるところでございませぬ。地域と創るという名前のとおり、整備内容の検討に当たりましては、意見交換会やアンケート調査等を実施し、地域住民の意見を収集、反映しながら進めているところでございませぬ。

●山田一郎委員 再整備事業の概要についての答弁でありませぬ。

陳情では、再整備の協議に若い年齢層が少なく、新しい意見や考え方を取り入れることができないとありませぬ。陳情者の佐藤さんは、子どもたちの意見や考え、これが十分に収集、反映されないまま再整備の計画づくりが進んでいることを課題と感じているように私は思ひました。

先ほどの答弁では、地域住民の意見を集めるために、意見交換会、アンケートの調査等を実施しているとの説明もありませぬが、子どもたちの意見、これを適切に把握できているのか、これが気になるところでありませぬ。

そこで質問ですが、意見交換会やアンケート調査等の実施により、子どもたちの意見がどれくらい集まっているのか、これをまず伺ひます。

●高橋みどりの推進部長 子どもたちの意見の数についてお答えいたします。

まず意見交換会につきましては、できるだけ多くの方に参加していただけるよう、町内会とも協議し、平日の夜や土曜日、日曜日に開催しております。しかしながら、実態としては、子どもたちに参加していただけることは少ない状況であります。

このため、アンケート調査については、子どもたちの意見を十分に把握するため、町内会での回

覧に加えて、公園内での掲示のほか、公園近くの小学校や保育園等でも実施しております。

この結果、公園によって数のばらつきはありますものの、子どもたちの意見として平均で100件程度集まる傾向でございます。

●山田一郎委員 様々な取組でなかなか難しいところもあると思いますが、子どもたちの意見、100件程度ということでございますので、本当に一定程度集まっています。これは地域性もあると思いますので、ばらつきはあると思います。

ただ、最近では小学生でもスマートフォンを持つことが増えているほか、タブレットを使った授業が当たり前になるなど、いわゆるICTの活用が広がっており、昔とは子どもを取り巻く環境というのは変わってきていると思います。子どもたちの意見をより多く集めるためには、こうした新しい技術やツールを積極的に活用するなど、様々な工夫を考えていく必要があるのではないかと思います。

そこで質問ですが、子どもたちの意見をより多く集めるために、今後、どのように取り組んでいくのか、考えなのか伺います。

●高橋みどりの推進部長 子どもたちの意見を集める今後の取組についてお答えいたします。

子どもたちの意見をより多く集めるために、様々な工夫を凝らしていくことが重要だと認識しております。

また、ICTの活用については、QRコードを使ったWEBアンケートや、小学校で配付されているタブレットを使ったアンケート調査に取り組み始めており、今年度は5か所の公園でそれを実施したところでございます。

今後は、これまでの取組結果を踏まえまして、より効果的な方法を検討し、実施していきたいと考えております。

●山田一郎委員 ただいまの答弁でも、ICTを活用した取組の事例があるということで、一定の配慮はされているということではあるんですけど

れども、今回の陳情というのは、この陳情者の佐藤さん本人が本当に提出されたものであって、自らの実体験、先ほどもいろいろ通じて公園の利用における不便さであったり、バスケットコートであったり、自分たちの声というのがやっぱり十分に反映されていないのかなと感じている点が、私は強く伝わってきたところであります。これは、やっぱりこれまでの仕組みではまだ届け切れていない声があるのかなと示していると思っております。

特に先ほどもありましたが、ICTの環境というのは大きく進化しておりますので、学校での端末利用やスマートフォンの普及、これも進んでおります。こうした背景を踏まえれば、今後はデジタルツールのさらなる活用により、より多様な子どもたちの声をすくい上げる手法の確立、こういったものが求められると考えております。

加えて、もちろん子どもたちの意見、単に収集するだけでなく、それをどのように計画的に反映させるのか。その仕組みや過程を丁寧に見せていくというのが、やはり将来の市民を育てるという観点からも大切であると考えております。

以上の点を踏まえまして、公園の再整備、これにおきましては、今後も引き続き若い世代、特に子どもたちの声に一層耳を傾けるとともに、それを反映できる仕組みづくり、これを進めていただきたいよう、強く求めて私からの質問を終わります。

●篠原すみれ委員 私からも、陳情の理由として記載されております1項目めの公園の再整備の住民との協議の宣伝拡大の陳情及び3項目めの若い世代の声を取り入れることのできる制度の陳情に関して質問いたします。

陳情者は、公園でバスケットボールをしたいが、ゴールが設置されている場所が少なかったり、設置されていても壊れていたり、郊外の遠い場所だったりするため、公園を利用しづらいと感じており、もっと若い世代の声を聞き入れてほしいという思いから、今回の陳情に至ったとのこと

です。

私自身、バスケットゴールが設置されている公園をあまり見たことがなく、実際にどういった場所に設置されているのか気になるところです。

そこで質問ですが、公園におけるバスケットゴールの設置状況と今の状況に至るまでの経緯について伺います。

●高橋みどりの推進部長 バスケットゴールの設置状況等についてお答えいたします。

現在、バスケットゴールは24か所の公園に合計34基が設置されている状況でございます。

一方、音に関する近隣住民からの苦情、要望などを受け、過去10年間で少なくとも11か所の公園でバスケットゴールが撤去されている経緯もございます。このように、バスケットボールは音に関する問題が発生しやすいことから、現在、バスケットゴールが設置されている公園は、住宅との距離を一定程度確保することができる郊外の公園や、面積の広い公園が多い状況となっております。

なお、撤去の扱いになっているバスケットゴールの中には、リングや板のみを取り外しているものがあるため、これが破損状態と見えてしまう可能性もございます。

●篠原すみれ委員 バスケットゴールを取り巻く状況について理解いたしました。ただ、バスケットゴールに限った話ではない課題を感じます。身近な公園の再整備に当たっては、利用する人たちの気持ちや思いだけでなく、利用しない周りに住んでいる人たちにも配慮することが大事だと思いました。

市に寄せられる意見には様々な内容がありますが、その背景には、その人それぞれの生活環境や、公園に求めるものの違いがあり、それらを考慮することが重要です。

一方で、それら多くの事情や感じ方の違いに対して、行政がどのような形でバランスを取り、施策に反映させるか、非常に難しいことだと推察い

たします。意見の集約と反映に苦慮する場面が多いと思いますが、その過程こそが住民自治という観点から大変重要と考えます。

そこで質問ですが、把握した様々な意見をどのようにして再整備計画に反映しているのか伺います。

●高橋みどりの推進部長 把握した地域住民の意見の反映についてお答えいたします。

委員のご認識のとおり、身近な公園は住宅に囲まれていることが多く、また、子どもから大人まで様々な人が利用するため、単に意見の数だけで計画を決められるものではありません。いただいたご意見に加えて、公園の状況や周辺環境等の様々な要素を考慮し、地域の皆さんと意見交換を丁寧を重ねながら、多面的な視点で再整備の計画を検討しているものでございます。

●篠原すみれ委員 地域住民の意見を再整備計画に反映する考え方について分かりました。それには検討の状況や結果を地域の方々にしっかりと伝えることが重要です。特に公園の主たる利用者とも言える子どもたちにも、再整備計画の検討状況やその結果が分かりやすく伝わり、自分事として理解してもらえるような配慮が大切と考えます。

そこで質問ですが、公園の再整備計画について、子どもたちにも分かりやすく伝えるということに対する市の考えを伺います。

●高橋みどりの推進部長 再整備計画を子どもに分かりやすく伝えることについてお答えいたします。

再整備計画の検討状況やその結果を子どもたちにも分かりやすく伝えることはとても重要なことだと認識しております。再整備の実施に当たっては、ニュースレターと呼んでいる広報誌を作成し、町内会での回覧や、公園内での掲示等を通じて地域への周知に努めているところです。

今後は、公園内の目立つ場所に大きく掲示するなど、これまで以上にニュースレターの読みやす

さや掲示場所等に配慮し、子どもたちにその内容を分かりやすく伝えられるように努めていきたいと考えております。

●篠原すみれ委員 子どもたちの意見をどう集めるのかと同様に、その結果を伝えることの重要性、そして具体的な手法についてのご答弁でした。

発信するだけではなくて、子どもたち自身がその発信をキャッチして、よく理解できる工夫をしていただきたいと思います。それが、子どもたちが市の取組に参加するための大きなきっかけや第一歩となるのではないのでしょうか。現状を十分に理解することは、行政運営に関わる上で不可欠要素だからです。

このたびいただいた陳情がきっかけで、地域住民、とりわけ子どもたちの意見を反映することの大切さについて改めて考えることができました。

本市には、様々な形で子どもたちの意見を市の施策に反映させるための努力をしていただきたいと思います。子どもを育てる一人の親としても、願うところです。もちろん全ての気持ちや思いに応えられるわけではありませんが、たとえ実現が難しいことであっても、こうして意見を届けてくださる子どもたちの声は貴重であり、他の取組を考える上で大きなヒントや財産になると考えます。

そして本市は、その届いた意見に対して、行政として説明責任を果たす義務があると言えます。

市民の皆様が、行政に声を届ける方法がいろいろある中で、手間と時間のかかる陳情という形で意見を届けてくださった陳情者の思いに敬意を表すとともに、これを機に、今後より一層、住民自治についてしっかりと考えていただくことを求めて、私からの質問を終わります。

●福田浩太郎委員 私からは、陳情の理由として記載をされております2項目め、再整備の回数の増量の陳情に関して質問させていただきたいと思っております。

陳情を出された佐藤さんは、様々なコストがか

かることを承知した上で、公園をもっと使いやすくするために、再整備を実施する回数を増やすことで、利用者の声をより多くの公園でより早く反映するよう要望をさせていただいております。

身近な公園の再整備は、地域の声を聞きながら、公園をリニューアルするものであり、時間もお金も相当かかるものだと推察をするところでもあります。

そこで、1点目の確認をさせていただきますけれども、毎年何か所の公園で再整備を実施しているのか、また再整備にかかる費用についてお尋ねをいたします。

●高橋みどりの推進部長 再整備の実施箇所数と費用についてお答えいたします。

身近な公園の再整備に当たっては、整備内容を地域住民と一緒に考える設計の作業に1年、さらに工事に1年から2年をかけて実施してきております。事業の実施箇所数としては、設計、工事ともに毎年約30か所ずつであり、要する費用は、公園の大きさや整備内容によってばらつきはあるものの、街区公園については、平均で約4,000万円、近隣公園では平均で約2億円となっており、年間の総額としては15億円程度となっております。

●福田浩太郎委員 ありがとうございます。毎年約30か所で合計15億円程度かけているということで、また、設計の段階から地域の方々と一緒に作業して、1年かけてということで、なかなかの苦勞をしながら再整備事業をしているということを確認させていただきました。

予算の規模としては決して少なくないと感じるところでありますけれども、ただ、30か所という公園の数だけを見ますと、札幌は10区ございますので各区で3公園ずつということになりまして、あまり多くないという印象も受けるところであります。自分が利用している公園がいつ再整備されるのかと期待をしている市民も多いというふうに思われるところであります。事業を実施する公

園がどのように選ばれているのかなということも気になるところであります。

そこで二つ目の質問であります。再整備を実施する公園をどのように決めているのか、お尋ねをいたします。

●高橋みどりの推進部長 再整備をする公園の選び方についてお答えいたします。

市内には合計約2,700か所の公園があり、その多くで老朽化が進んでいるため、優先順位をつけながら、計画的に事業箇所を選定しているところでございます。

具体的には、身近な公園の面積や配置等から地域ごとに利用の中心となる公園を選定し、これを地域の核となる公園と位置づけ、それを重点的に再整備を実施してきております。

なお、この地域の核となる公園は、市内全部で約800か所あり、これまでに約350か所で再整備を実施したところでございます。

●福田浩太郎委員 ありがとうございます。老朽化した公園が多いということで、優先順位をつけて、地域の核となる公園、利用者が多い公園、これを重点的に再整備をする、800か所ですかね、絞って再整備を実施するというところでございました。

まだ再整備が実施されていない公園が多くあり、また、昨今の厳しい財政状況も考えると、再整備を実施する公園の数を増やすということはなかなか難しいようにも感じたところでございます。

ただ一方で、陳情でもお話がありましたように、公園を利用されている市民の方には、中には切実な要望を抱えている方も多いところであり、より多くの公園で意見を反映してほしいという陳情者のお気持ちには共感をするとところであります。

そこで三つ目のお尋ねをいたしますけれども、地域の意見をより多くの公園で反映するために、今後どのように進めていく考えなのか、お尋ねを

いたします。

●高橋みどりの推進部長 地域の意見を反映する方法についてお答えいたします。

公園の整備方法には、大きく分けて再整備と部分改修の二つがあり、これらを併用して地域の意見を反映してきております。

再整備は、公園の全体を改修するものであり、多くの意見を反映できますが、事業に要する費用が大きいため、実施できる公園の数は限られます。

一方の部分改修につきましては、日常の維持管理の中で、利用者からの要望も踏まえて、改修を行うものであり、再整備と比べて費用が少なく、多くの公園で適宜実施してきております。

今後も意見の内容や公園の状況等に応じて柔軟に対応し、より多くの公園で地域の意見を反映できるよう努めていきたいと考えております。

●福田浩太郎委員 ありがとうございます。再整備と部分改修を上手に組み合わせながら、柔軟に対応していくということで、より多くの公園で地域の方の声を反映して、使いやすい公園としていきたいというお話でありました。

今回、陳情が出されまして、当初文章で見たものと、先ほど佐藤さんが説明をいただいた内容、やはり実際、生で聞くと非常に伝わってくるものが多くございまして、私自身、非常に参考になる、今後、こうした声を反映していかなきゃならないということを改めて感じたところでございます。

このたびの陳情の主張なんですけれども、私も議員になる前に同じようなことを考えていたところがあり、よく分かる内容でありました。若い年齢層のみならず、市民にとっても憩いの場、運動の場、癒やしの場として、貴重な公共施設である公園がよりよい管理となり、使い勝手のよいすてきな施設であってほしいというふうに願う、希望する声は多いものかなというふうに思っております。

しかし、実態としましては、草が繁茂していたり、また、ベンチや遊具などが傷んでいたりと、手入れがなかなか行き届いていないと感じる公園、また、そのタイミングによっては、そういう時期がこの長い1年の中にはあるという実態もございませぬ。確認させていただきましたが、2,700ほどもある公園を小まめに維持管理するということ、難しいことであるというふうに理解できるのでありますけれども、今回、出された陳情の趣旨を踏まえ、例えば企業など民間との連携を推進するなど、より一層工夫に努めていただきたいということをお願いして、質問を終わります。

●長屋いずみ委員 私からも陳情に関わり2点質問をいたします。

陳情者の要望は、子どもの意見を公園に反映させること。公園のことはよく遊んでいる子どもたちがよく分かっている、知ってるはず、こういった観点から、公園の再整備に子どもたちに積極的に関わってもらふことで、魅力的な公園ができるのではないかと、こういったことだと思ひます。

そこで質問ですが、再整備の内容に小学生の意見を取り入れる取組について、どのようにお考えなのか伺ひます。

●高橋みどりの推進部長 再整備に小学生の意見を取り入れる取組についてお答えいたします。

多くの子どもたちが公園を利用することから、小学生の意見を再整備の内容に取り入れることは、非常に重要だと認識してあります。

このため、再整備に当たって行うアンケート調査については、町内会での回覧や公園内での掲示に加え、近くにある小学校や児童会館でも実施してきていますところでございます。

●長屋いずみ委員 小学校や児童会館にもアンケートを届けているということでした。

本市の中央区にあります日新、共栄、この両公園は、子どもの視点から構成された公園で、とっても使いやすいと子どもにも人気のある公園だとお聞きしました。

そこで質問ですが、この二つの公園は、いつ、どのように整備されたのか伺ひます。

●高橋みどりの推進部長 日新公園と共栄公園についてお答えいたします。

日新公園と共栄公園の両方とも、住宅地の中にある身近な公園であり、いずれも20年ほど前に再整備が実施されたものでございます。

当時は再整備事業を始めて間もない頃であり、様々な方法を試みていた中で、これらの公園は、近傍の小学校の協力の下に、児童のアイデアを積極的に取り入れて整備した経緯がございませぬ。

現在、毎年数多くの公園で再整備が必要とされている状況ではありますが、引き続き小学生をはじめとした地域の意見を大切にしながら、丁寧に事業を進めていきたいと考えてあります。

●長屋いずみ委員 いずれも20年以上前に再整備された公園だということだす。両公園とも理想的な公園として親しまれていて、人気だと言ひます。二つの公園整備には、学校も積極的に関わってくれ、町内会も様々なアイデアを出された、子どもと大人が一緒に取り組んだということでした。

今回、授業の一環として、こうした陳情提出に取り組まれた生徒さんがおられました。公園は子どもの成長を支える役割の一端を担ってありますので、自らが公園づくりへの要望を考えることで、先ほど様々な提案も出されてあります。

地域づくりの主体者になる、さらにこういったことによつて、様々な社会の問題、社会を見詰めることにも、そういうきっかけにもなります。こういう点で、みどりの推進部が市民意見を市政に反映するための仕組みを考えたり、町内会を支える市民文化局や子どもの権利を中心に考える子ども未来局、そして教育委員会などともっと連携を強めて、子どもたちにも町内会にも支持される公園づくりを行つていただきたいと求めて、私の質疑を終わります。

●小形香織委員長 ほかに質疑はございませぬ

か。

(「なし」と呼ぶ者あり)

●小形香織委員長     なければ質疑を終了いたします。

ここで、陳情第37号の取扱いについてお諮りいたします。

取扱いはいかがいたしますか。

(「継続」と呼ぶ者あり)

●小形香織委員長     それでは、陳情第37号を継続審査とすることにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

●小形香織委員長     異議なしと認め、陳情第37号は継続審査とすることと決定いたしました。

以上で委員会を閉会いたします。

---

閉 会 午後1時39分